

新潟教育研究所

令和5年6月15日発行 第53号

公益財団法人 新潟教育会
新潟教育研究所

〒951-8104

新潟市中央区西大畑町590-3
URL <http://kyouikukai.jp>

新潟教育会館

TEL・FAX 025-222-2971

E-mail kenkyujo@kyouikukai.jp

「様々な他者と共に〇〇する」授業デザイン、実践への転換 ～「〇〇させる教師」と「〇〇させられる子ども」の関係を越えて～



新潟大学大学院 教育実践学研究科 准教授 田代 孝

私自身、意識せずに使ってきた言葉で、逆に今、とても気になっている言葉があります。それは、「〇〇させる」です。私たち教師は、この言葉をしばしば使います。例えば学習指導案を書く時、「教師の働きかけ」や「指導上の留意点」として「〇〇させる」と書きます。同僚との会話でも、「〇〇させる」と言います。教育活動は意図的、計画的、組織的な営みです。「〇〇させる」ことは教師の働きかけの一つです。でも私は、次の疑問をもっています。

・教師が「〇〇させる」ことで、子どもは本当に行為するのでしょうか。

私が30歳代の頃、ある授業で指示をしました。すると、ある子が私に言いました。「先生、それをやったら何か意味、あるんですか？」

当時の私は、子どもは教師の指示に従って当たり前だと思っていました。自分の気持ちを正直に伝えてくれたこの子に、今でも感謝しています。そして疑問や時には反感をもっていますが、子どもは教師の働きかけに応じてくれていることもあると自戒するようになりました。

・子どもの感情や思考までも、「〇〇させる」ことはできるのでしょうか。

私たちは、学習指導案に「自分の考えをノートに書かせる」「グループごとに話し合わせる」などの行為を書くことがあります。実際の授業では、上述の私の失敗のような場合もありますし、その行為が自然に引き出されることもあるでしょう。

では、「思いをもたせる」「気付かせる」「考え

させる」などの感情や思考はどうでしょうか。簡単に「〇〇させる」と書いてよいのでしょうか。期待する感情や思考を促す具体的な方法こそ、詳細に構想し、実践することが大切だと思っています。

・「〇〇させる」だけの授業は、子どもの主体的な学びを促すのでしょうか。

授業中、私たちは子どもに「先生、次、何するんですか？」と聞かれることがあります。「〇〇させる」だけの授業は、常に直接、子どもに教師が働きかけ続けられないとうまくいかないようです。

先日、「次期教育振興基本計画について（答申）」（中央教育審議会、2023.3）が公表されました。「予測できない未来に向けて自らが社会を創り出していく」「個々人が自立して自らの個性・能力を伸長する」という記述が見られます。この「自らは」「協働」「合意形成」「学び合い」など、他者に開かれている点にも注目です。経済産業省による「未来人材ビジョン」（2022.5）では、「これからの教室」として「一人ひとり違う目標と教材選択で」「多様な内容を」「多様なペースで」「個別に協働的に」「主体的に」学ぶことが提言されています。これは、令和の日本型教育の「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」とも重なります。

今こそ、「〇〇させる教師」と「〇〇させられる子ども」の閉じた関係から、「子ども、友達、教師などの様々な他者と共に〇〇する」開かれた関係による授業デザイン、実践に転換する時です。

不登校だった生徒たちへの支援



新潟教育研究所 教育アドバイザー

佐藤 昇 誠

はじめに

小中学校では、不登校の子どもたちが年々増加している。低年齢化が進み、小学校1年生から不登校になり、義務教育9年間に学ぶべき学習や集団生活を経験しない子どももいる。

1 現在の職場から

私は、広域通信制の「さくら国際高等学校」に勤務している。5年前に西区青山で生徒2人からスタートした学校も今年度は160人を超えた。

学習センターは新潟市に5カ所、新発田市、村上市、阿賀野市、三条市に、計9カ所に設置し、教職員は40人に増えた。

在籍する生徒は、中学校で不登校あるいは適応指導教室への登校や保健室登校の生徒がほとんどである。また、発達障がい等の特性があり人間関係づくり、集団生活、コミュニケーションの苦手な生徒が多い。

このような不登校だった生徒から教えられたことがある。それは、学校に行けなかったが、学校が嫌いではなかったこと、勉強をしたくないとは思っていなかったことである。不登校の子どもたちのほとんどは、学校嫌いではなく、勉強嫌いでもないのである。

では、なぜ長く不登校になってしまったのかと聞くと、勉強が難しく学校を休んで、学校を休むとさらに勉強が分からなくなるからずっと休んでしまったと言う。

そこで、当校では、高校1年生に対して小学校の漢字ドリルと計算ドリルを配って、学び直しをしている。小学校6年生までの漢字の読み書きと計算ができれば、社会に出て困らないで生活できるという目標をもって全員が取り組んでいる。生徒たちはできなかったことができるようになったことを喜び、分からなかったことが分かるようになって少しずつ自信を取り戻してきている。

2 生徒の不安を理解して

当校では、年間3日間必修の「就労体験実習」として、様々な職場で終日働く活動を設定してい

る。中には、体験する職場を自分で選択したものの当日の朝になって動けなくなり、ベッドにもぐりこんだままという生徒がいる。そのような生徒には家庭訪問をし、ベッドサイドで説得することもある。いろいろ話し合っているうちに、起きれない原因は新しい経験に対する不安からであることが分かった。

これについては、生徒本人の勇気を引き出すために励ますしかなかった。生徒は翌日には遅刻したものの職場に向かった。不安が消えたのではないが、勇気が不安に打ち勝ったようだ。

生徒たちは、何とかして一歩でも半歩でも前に進みたいと思っている。その思いからの行動を認めて、褒めている。これまで認められたり褒められたりした経験が少ない生徒たちは、認められたい、褒められたいと強く思っている。

生徒の不安を理解し、それを乗り越えた姿を認め褒めることが、生徒の不安を軽減し、自信を持たせる大事な支援になると思っている。

3 生徒の可能性を信じて

当校には、学習経験が少なく学力の低い生徒が多い。それでも、高校卒業の資格を取得し、大学や専門学校に進学したい、あるいは、給料を得るために会社に就職したいと強く思っている。そのため、苦手な公共交通機関を利用し、数時間のスクーリング授業に耐え、単位認定試験に挑戦している。

中学校の時の担任は、当時には想像もつかないほど前向きに生きている生徒の姿を見て驚きを隠せない。すべての生徒は自分の夢や希望に向かって進み、それを実現する可能性をもっていると信じている。

おわりに

当校は「いつか咲く。思いどおりにきっと咲く」をモットーに生徒の社会的な自立を支援している。

この3月、第3回卒業証書授与式で33人が巣立っていった。それぞれの場所で自分らしいさくらの花を咲かせてほしいと願っている。

はしり ^{でさか}出盛り なごり

新潟教育研究所 研究員

宮川由美子



はじめに

幾つであっても十分とは言えないが、90歳は超えていた叔母が天寿を全うした。独居老人であったため手続きが何かと難しく、お通夜までの道のりが遠かった。他人事ではない。私も遠からず独居老人となる身である。それなりの施設にお世話になればいいのだろうが、自由気ままが身に付いた私には高いハードルである。

1 「はしり」の瑞々しさ

長いコロナ禍の時期が大学生活と重なった学生たちが、この春「社会人デビュー」をした。本来なら、キャンパスで友達と笑い合い、ゼミで自らの考えをぶつけ合い、得意の分野にとことん挑戦するなど青春真っ盛りを満喫するはずだった。現実には、大学構内立ち入り禁止、リモート授業、パーティションで遮られた対面授業等々の制約だらけであった。彼らに問うてみた。「コロナ禍だったけど、得たことってある？」◇普通だったら毎日が慌ただしく過ぎていくばかりですが、落ちていて自分を振り返る時間がありました。◇直接コミュニケーションがとれないので、やりとりの中で、相手はどう思っているだろうと意識して考える時間が増えました。若さならではの柔軟な細胞とはこんなものか。

目が回りそうですが楽しいです！二日間でクラス全員の名前を覚えました！先生として子どもたちと関わる幸せを嘯みしめています！桜の花便りと共に夢の始まりのメールが次々届いた。

2 「出盛り」の真っ只中

「店先で出盛りのものが一番美味しいのよ」最近読んだ本の中の一節。確かに、野菜でも果物でも、ほぼ何でも一年中あるが、出盛りのものは、ことのほか美味しく力強ささえ感じる。

長い現役時代、「出盛り」の時代は人によりけり。かつて同僚だったS校長先生。今まさに絶好調。

まずは、その眩しいほどの明るさが周囲を引きつける。あの笑顔と歯切れのよい口調は、困難な案件も何とかかなりそうな気がする。「大丈夫です〜」が口癖。「頼みを断れない」のが長所でもあり短所でもあり。風の便りに聞こえてきた「職員室の雰囲気がいい」は最高の評価である。彼女の頭の大半を占めているのは「地域の特色を生かした教育活動がしたい」。机上の空論ではなく開かれた教育課程を描き実践しつつある。

この春に現職を引いたW校長先生も同じタイプだった。地域と心底連携した教育活動は「校長先生がいてこそ」と言わしめた。

3 「なごり」だって捨てたものじゃない

「由美ねえは仕事を辞めた途端呆けるよ。」と叔母の葬儀の折に従弟から言われた。レポートの点検に予想以上の時間がかかり、仕事のペースは年々落ちていき、記憶力に至っては言わずもがなの日々。だが、この一言には僅かながら「悔しさ」を感じた。「悔しさ」は「次への弾み」となり「生きる戦意」に繋がると誰かが言っていた。そして、普通、人は年とともに「悔しい」という言葉が出なくなるとも言っていた。となると、自分で思っているよりも「年」ではないのかも。なごりの〇〇という、旬の終わり頃の食物の美味しさを表す言葉もあるではないか。同世代の皆さま、ガンバ！

おわりに

叔母のことがある程度落ち着くのに、10日間ほど費やした。一週間前の週末は友達と日帰り温泉を楽しんでいた。不謹慎だが、先週でなくてよかったと思った。叔母は楽しいことが好きな人だったから、きっと、あの世で苦笑しているだろう。生きているものの身勝手な考えと百も承知であるが…。そして、同年代の母の横顔に、時折寂しさが見え隠れするのは気のせいかな。

Support, Information & Opinion

S. I. O. の充実をめざします

第15回教師力アップ講座

コロナ禍が漸く収まりつつあります。上記の講座は、さらにパワーアップして実施したいと考えています。別紙「教師力アップ講座」の案内状をご覧ください。なお、HPからも申し込み可能です。

●日時 令和5年7月22日（土）午前9時45分～

●会場 新潟教育会館（新潟市西大畑町590-3）

例年、午前と午後に分け、2講座で実施していましたが、「もう少し、じっくりと取り組みたい」というご意見を多数いただきました。よって、今年度は、「教育相談」の内容で、講義と演習を盛り込み、一日を通して一つの講座で実施します。

講座「子どもや保護者との良好な関係を築く」



講師 古田島 真樹 様

長岡市立青葉台小学校校長
公認心理師
特別支援教育スーパーバイザー
学校カウンセラースーパーバイザー



ファシリテーター 中島 崇 様

聖籠町教育委員会教育未来課 参事
特別支援教育士
学校カウンセラー
ガイダンスカウンセラーSV

教育アドバイザー派遣事業の推進

教育アドバイザー派遣事業は、要請に応じて登録いただいている教育アドバイザーを派遣し、学校



及び先生方を支援する制度です。校内研修はもちろんですが、授業研究会、PTA講演会、研究サークルへの派遣申請が多く見られます。個人研修の要請にも応じますので、ご利用ください。

教育アドバイザーの選定は、「教育アドバイザーリスト」をご覧ください。12月には、令和5年度登録者を加えたリストをHPにアップします。

（今年度からリストの配布は行いません）。

所報「新潟教育研究所」の発行

6月・2月の年2回の発行に変更しました。

インターネット接続が可能になりました。

会議室・相談室からインターネットに接続可能になりました。講座でのインターネット活用やリモートでの講座や研修も可能です。WiFi接続に必要なIDやパスワードは各会場に明示してあります。会館利用者の活用をお待ちしています。

教育アドバイザーの派遣について

要請の仕方

校内研修で、研究会で、PTAの講演会で、研究サークル等で、「あの先生にアドバイスを受けたい、話をしてもらいたい」と思ったら……

1 まず事務局にお電話をください。

新潟教育会事務局「025-222-2971」へ

招請したい教育アドバイザー、期日、内容、会場、参加人数等をお知らせください。

2 事務局が教育アドバイザーに連絡をとります。

3 依頼者に承諾の結果をお知らせします。

4 応諾であれば、依頼者が教育アドバイザーに詳細を連絡してください。

* 事前に教育アドバイザーと連絡を取り、結果を事務局にお知らせいただく形でも結構です。

派遣経費について

交通費を考慮した謝金は、年度内で連続して同一の教育アドバイザー派遣を要請する場合、初めの1回分だけ当方が負担します。2回目以降は利用者が負担してください。教育委員会からの要請はご相談ください。